



Aさんは、幼い頃両親が離婚し、お父さんの顔を知らずに育ちました。ある日、小学校の授業で「父の日の絵を描きましょう」と言われ、Aさんは心のどこかに不安を抱えながら「本当に描いていいのかな」「変に思われないかな」と思いながらも、先生の言われるまま親戚のおじさんの顔を思い浮かべながら「父の日の絵」を描いていました。すると、後ろから「あー、いけんのに。Aちゃんはお父さんがおらんのにお父さんの絵を描きよる。」と言われたそうです。教室はざわつくこともなく時間は流れましたが、担任の先生は何も言わずその場をやり過ごしました。Aさんは「先生、私お父さんがいないので、おじさんの絵を描いてもいいですか？」とわざわざ許可をもらってから描いていたそうです。それが辛く悲しく、忘れられない出来事なんだと話をしてくれました。

次の学年になり、同じ「父の日の絵を描く」という授業。Aさんは昨年のことが頭をよぎり不安を抱えていた時、先生が「Aさん、あなたが“ありがとう”って思う人の絵を描いたらいいよ。それがあなたにとっての父の日なんだよ。」と言ってくれたのです。その一言で心がフワッと軽くなり、「私も父の日の絵を描いてもいいんだ」と安心して、おじさんの優しい笑顔を丁寧に描き上げました。

あの時の先生の言葉は、今でも心に残っているそうです。「何も言われなかったら、自分の存在を小さく感じたかもしれない。でもあの先生の言葉が私の居場所を作ってくれた。自分もみんなと同じでいいんだ。」と感じたそうです。

たった一言で人の心は傷つきます。たった一言で人の未来に影を落としてしまうこともあります。でも・・・たった一言で人は立ち直り、希望を持つこともできるのです。

子供は私たち大人の言葉で自分が大切にされているかを感じ取ります。だからこそ、私たち大人は、子供の「これから」にそっと背中を押せるような言葉を届けていきたいものです。

個別相談 まずは、お電話ください。 ☆そよ風のホームページを開設！

電話・FAX 0893 (24) 4580
月・火・木・金 午前9時～午後4時

【大洲子育てサポート“そよ風”】
大洲市アフタースクールおおず内（元大洲幼稚園）
大洲市大洲 71

そよ風HP
こちらから→

